

---

# I Sの世界からゼロ魔の世界へ

古手雅樹

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ISの世界からゼロ魔の世界へ

### 【Nコード】

N1067BA

### 【作者名】

古手雅樹

### 【あらすじ】

ある日古手が神様の勝手な行動によりISの世界からゼロ魔の世界へ

飛ばされてしまう

古手「もう勘弁してくれ」

この作品は転生先はインフィニットストラトスリメイクのIFで暇な時に気分を更新していきます

## 第1話　ぶろろーぐ

古手「ここはどこだ？俺は確かに寝てたはずだが・・・」

真っ白だ・・・

神「よっ」

古手「ん？なんだ神様が何か用ですかい？」

神「ちよいとこの世界に飛ばされてみな」

そうすると下の穴が開きいつも通り落ちる

古手「不幸だあああああああ」

トリステイン王国中庭

アンリエッタ「中庭での紅茶は美味しいです」

そこに1つの流れ星が空から降る

アンリエッタ「まあ！流れ星！」

「っ！女王陛下お下がりください！こちらに向かってきますー！」

アンリエッタ「なんですって!」

一つの流星が近くの湖に落ちる

ドゥーゴン!

アンリエッタ「あそこは・・・隊を集め私とともに湖へ!」

「はっ!」

こうして運命のはぐるまは動き出す

## 第1話　ぶろろーぐ（後書き）

こんばんわ・・・そして・・・やっちゃまったww

## 異世界人との出会い

アンリエッタサイド

大きな湖に1つの流星が落ちてきて私は見に行った  
そこには大きな人形が落ちていた

アンリエッタ「これは・・天使ですか？それとも人形・・それとも・  
人？」

そこにお腹らへんから何か開いて1人の男性が湖に落ちる

バシャーン

アンリエッタ「！その者を城へ！」

「はっ！」

こうして見知らぬ人を城へ置いていこうとしてその人が動かしていた  
天使のような背中に大きな翼大きな人形を動かそうとしたら  
それが光りだし小さくなってその男性の腕にはまる

アンリエッタ「これは！」

こうして見知らぬ人は城の中へと連れて行った

古手「ん・・・」

古手はとある一つの部屋にいる

ティエリア「気がついたか」

そこは王宮みたいな、部屋で古手は目を覚ました

ティエリア「お前はあのあと気を失って目を覚ましたらここにいた」

古手「了解把握した」

そこに一つのドアが開く

ガチャ

「あら気がついたんですね」

古手「貴女は・・・」

「私はアンリエッタ・ド・トリスティン、この王国の女王です」

古手「（とゆうことはゼロ魔の世界か）俺は古手雅樹」

アンリエッタ「貴方は何者ですか」

古手「異世界から来たって言っても無駄か」

「ならどうする？」

古手「あんたわ？」

「私はアニエス」

古手「俺はこれから魔法学院に行こうと思う」

アニエス「魔法学院に？どうしてだ！？」

古手「そこに用事があるからだ」

アンリエッタ「なら、今度魔法学院に行きますから一緒に・・・」

古手「護衛と監視としてついてこいと？いいだろう助けてもらったお礼をしたい」

アンリエッタ「ありがとうございます」

魔法学院サイド

オスマン校長「これは・・・コルベール殿女王陛下がくるそうですぞ」



コルベール先生「おお！そうですか！それならおもてなしを考えなければ」

オスマン校長「ぬ？．．今回は王宮から何かしら見せ物があるらしいぞ」

コルベール「なんでしょうかね楽しみです」

2人が和んでるその瞬間

どっかーん

オスマン校長「．．．また、ミス・ヴァリエールかのう．．」

コルベール「．．．そうですね．．．」

ルイズサイド

サイト「ぎゃああああああ」

ルイズ「このバカ犬！！！！！！」

## 異世界人との出会い（後書き）

短めで後々修正しながら文字数を増やします

## 設定事項（前書き）

機体においての設定です

## 設定事項

名前 古手雅樹

外見 バカテスの秀吉と同じ

性別 男性

所属 なし

体 S E E D 純粹種のイノベーター（スキル別）

極限までの体の強化

（ ）は変形として使える機体

たまに女装をするが女装すると周りの人たちを血の海にさせることもあるので  
あまりしないが それにしてもこの本人ノリノリであることがわかった

使用機体

ダブルオーライザー

(ダブルオーガンダム

ダブルオーガンダムセブンスード)

ストライクフリーダム

(ミーティア)

インフィニットジャスティス

(ミーティア)

ゴッドガンダム風雲再起

(ゴッドガンダム)

ガンダムHWS

(ガンダム)

V2ガンダムアサルトバスター

(V2アサルトガンダム

V2バスターガンダム)

ガンダムエクシア

(セブンスード・アヴァランチエ)

ウイングガンダムゼロ(EW)

ガンダムデスサイズヘル(EW)

ヘビーアームズ改(EW)

ダブルオークアンタ

フリーダムガンダム  
(ミーティア装備)

ガンダムアストレア

## 使い魔お披露目会

アンリエッタサイド

アンリエッタ「今回私の友人が使い魔契約のお披露目会なんですのそれを絶対に身に行こうかと思ひまして」

古手「そうですか、ちなみにそのお披露目会はいつですか？」

アニエス「明日だ、なので明日の朝移動開始する」

古手「了解、それでは明日、白の門にてお待ちしております」

アンリエッタ「どこへ行くのですか？」

古手「そこらへんの所で野宿しようかと」

アンリエッタ「それなら部屋をお貸しします」

古手「いいのですか？」

アンリエッタ「構いません、アニエス部屋の案内をお願いします」

アニエス「わかりました」

## 移動中の出来事

古手「すまん」

アニエス「かまわない、姫様の命令ならば」

古手「そうか・・・」

ちよつと歩いた後1つのドアで立ち止った

アニエス「ここだ」

古手「どうも」

アニエス「それでは明日朝お迎えに来ます」

古手「ああ、わかった、それじゃおやすみ」

アニエス「おやすみ」

がちゃん

こうして古手は部屋に入りティエリアに呼び掛ける

古手「ティエリア、ちよつといいか？」

ティエリア「どうした？」



古手「M S I Sについてちょっといいか？」

ティエリア「機体には異常はない」

古手「いや、そういう意味じゃなくて、巨大な人形で・・・」

ティエリア「ああ・・・神の仕業かどうかI SタイプとM Sタイプ両方できるようになっている」

古手「・・・神様…：どんだけ暇人なんだよ・・・」

ティエリア「しかし1回使用した機体は明日1日でなくなるから注意するように」

古手「了解」

こうして2人はベットに入り明日の朝に備える

ちゅんちゅん

ドンドン

古手「ん・・・」

ドンドンドン

古手「はいはい・・・」

ガチャ

「おはよう、朝食の時間だ」

古手「了解ちよつとまっけてくれ」

「わかった」

古手の着替えが終わり朝食を取り城の門へ行く

アンリエッタ「さて、行きましょう」

古手「そうですね」

そうすると古手はティエリアに言う

古手「ティエリア、フリーダムをISモードで展開」

ティエリア「了解、フリーダムをISモードで展開」

古手の周りが光だし自由の翼が光から出てくる

アンリエッタ「まあ・・・今度のはなんでしょう?」

古手「この機体はフリーダムガンダム」

アンリエッタ「フリーダムガンダムですか」

ティエリア「我々の世界ですとフリーダム・・・自由と言います」

アンリエッタ「さて、いきましょう」

アンリエッタ女王は陸から古手とティエリアは空からトリスティン魔法学院へと移動する

たまにアンリエッタに近づいて手をふったりして学院にむかった

サイト・ルイズサイド

「アンリエッタ女王陛下のおなーりー」

ルイズ「来たわよ！ビシットしなさい！びしっと！」

サイト「わ、わかったよ」

白い馬車から下り白いドレスに紫のマントで降りた女性が  
オスマン校長の所へ行くそこに1人の男性を見つけた

サイト「あれ・・・？」

ルイズ「どうしたのよ」

サイトは1人の男性に指をさす

サイト「あれ、俺と同じ世界の服」

ルイズ「っ！そうなの！」

サイトは1人の男性の所へ行こうとする

ルイズ「待ちなさいよ！今動いたらだめでしょ！」

サイト「むう・・・わかったよ」

こうして同じ世界の服を着た1人の男性と会えぬまま夜を迎える

## 使い魔お披露目会（後書き）

今回もぼちぼち後々から続きを書いていきます

## 破壊の杖（前書き）

今回はセリフの前に名前をなしでやってみました

## 破壊の杖

古手サイド

今現在俺は学園から離れた場所から会場からの合図を待っている

『次はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエールです』

『がんばれーゼロのルイズー！』

という応援みたいな掛け声が聞こえ後々から笑い声が聞こえる

「そろそろかな」

「そうだな」

古手はルイズを最後に合図が来ると思い準備をする

「ティエリアウィングガンダムゼロ（EW）をISモードで展開」

「了解、ウィングガンダムゼロ展開」

古手の周りにやわらかい白い翼が出来  
赤青白のトリコロールの機体が出る

バサッ

「ティエリア、機体チェック」

「大丈夫だ、問題はない」

「わかった」

ちょうど機体のチェックが終わったことに会場からの打ち上げ合図が打ち上げられ機体を会場に向けブーストをかける

ズドン！

「さあ！行くよ！」

サイトサイド

やっと俺たちの出番が終わり今度は王宮から見せ物があると

「みなさん今日はありがとうございます、今回はわたくしからの見せ物があります」

学園じゅうからざわめきができ、女王陛下が指をさす

「あちらを見てください、・・・行きます！」

大空に大きな光を打ち出す

「うおっまぶしっ」



そこに聞きなれた1つの音が聞こえてきた

「・・・この音・・・ジェット機？」

「ジェット機？なんなのよサイト」

「ジェット機は外部からの空気を熱エネルギーに」

「ああもついいわ、長くなりそうから」

そして1つの天使が来た

「あ・・・あれは！」

「サイトあれを知ってるの？」

「あれは俺たちの世界のアニメと言っ奴から出来てる奴なんが・・・」

「そうなの？」

「でもあれは現実化はできないはずだが・・・」

サイトが話してる間にその1つの天使が女王の上に止まった

古手サイド

「やっぱり注目はされてるな」

「それはしかたないとおもう」

「そうだな」

古手は1人の男性に近づき近くに降りた

ふわっ

ザッザッ

「お・・・おまえ・・・お前もこの世界に飛ばされてきたのか？」

と言われたので普通に答える

「まあ簡単に言つとそうだな」

「そうか、俺は平賀才人よろしく」

自己紹介されたので

古手は顔の所に手を置いて仮面を外し

同じくこっちも自己紹介し握手を交わす

「俺は古手雅樹、よろしく」

サイトはちよつとポカーンとなつて一言

「え・・・えつと・・・女の・・・」

そこで俺は大きく息を吸って

「俺は男だあああああ！」

と叫んでしまった

「あああつ！すまん！そう言われるところなんだ」

「そ・・・そうなのか・・・スマン」

「古手殿」

後ろから言われたので振り向くと女王陛下が

「こつちいらっしやい」みたいなやつを手でやってるみたいのをやっている

「了解しました」

「じゃあまたあとで」

こうして別世界の転生者と異世界に飛ばされた者が出会った

古手の紹介が終わりちよつとした後サイト達と合流し話ながら  
ルイズの部屋に移動していた

「そついえばお前どこのから来た？」

「俺は神奈川って言えばわかるか？」

「まじか！案外近いな俺は東京だ」

「ちょっとそこだよ」

「まあ、いつか教えるよ」

こうして和みながら学園の中を歩いてると右腕の腕時計からティエリアが出てきた

「雅樹、近くに生体反応右だ」

「了解！」

「誰だ？」

「俺の相棒だ！」

古手はサイト達にティエリアの事言つと直ぐに反応があつた所に向かった

「はあはあはあ………」

近くごとに動く石像が見えてきた

「つつ！あれは！ゴーレム！」

そこにサイトの剣が喋った

「相棒！引け！」

そこに古手は

「キャアアアアアア！シャベッタアアアア！」

サイトは古手の事をスルーして剣を引く

## 破壊の杖（後書き）

またあとで更新しますWWW

## 破壊の杖の搜索

ゴーレムがルイズ達に気がついて攻撃を仕掛けてきた

ズシンズシン

「来るぞ！」

古手はガンダムアストレアになり左足を切り

サイトはデルフリンガーを抜いて右足を切る

ザッシュザッシュ

しかし足はすぐに回復したがそこにルイズが呪文を唱える

「ファイアーボール！」

ドッカーン！

しかしあたりは宝物庫の方にあたってしまい壁が壊れる

「っ！しまった！」

「破壊の杖は貰って行くよ！」

そこにサイトが追っていくが

「サイト！追うな！まず安全確認が必要だ！」

「っ！わかった」

しかし古手が追う事をやめた事にルイズが怒った

「どうしてよ！」

「窃盗事件でもその間に姫様がなにかあったらどうするんだよ！」

そう言われルイズは冷静になり周りを見る

古手はそこに1つの紙を見つけた

「これは・・・」

古手が紙を拾いサイト達を集めて学園長室に移動した

「なんと・・・そうか・・・」

「ということで俺はフーケを追います」

「そうか！追ってくれるか！」

「ああそれが俺の仕事だな」



「そうか、頼む」

こうしてルイズ・サイト・タバサ・キュルケ・古手・ロングビルの  
6人で行くことにした

ちなみに古手は女王からの直属の命令で学院にいることになった

フーケを探してる途中

「自己紹介まだだったな、俺は古手雅樹、  
そこにいる平賀サイトとほぼ（・・・）同じ所から来た」

「マサキってすごいわね、平民なのによく飛べるわね」

「これは科学だよ魔力じゃなく違うエネルギーで動いてる」

「ふうん・・・」

「違うエネルギー？電気か？」

サイトが質問してきてすぐに答えなかったが2秒後答えた

「電気もあれば核で動いてる」

「核だと！大丈夫なのか？」

「大丈夫だよ、そこには厳重にしてる」

「そうかよかった」

「ねえ！あそこ！」

ルイズの指差した方向に小さな小屋を見つけた

「俺が先に行く」

「わかった頼む」

サイトが窓から見て

古手がゆっくり近づいてドアに近づいてノックしてゆっくりドアを開ける

ギイ・・・

「大丈夫だ」

そこにルイズとロングビルが家から離れていく

「ルイズ！」

「私は外を見張ってるわ」

「わかった」

「ヴァリエールさん！」

ルイズが足を止め古手の方を向く

「大丈夫だ小屋の中に杖はあるから」

「わかったの!？」

「ああ、その箱の中に杖あるから」

「なら早く言いなさいよ」

「タバサさん、シルフィードさん呼び出して」

「わかった」

シルフィードを呼び出し小屋の前で止まる

そこに古手が1つの箱から破壊の杖の箱を取り出し  
ルイズに持たせる

「任務完了ね」

「結構簡単だったわね」

「そうだな早く戻って・・・ルイズ！後ろ！」

ルイズの後ろにゴーレムが出来ルイズに襲いかかる

「くっ！ファイアーボール！」

ぽひゅ

「何やってるのよ！ファイアー！」

ポオオオオ

キュルケとタバサが魔法で何とかするが効果があまり聞かないようだ

「っ！任せろ！ヴァリエールさん！破壊の杖をサイトに！  
サイト！それを開け！お前なら使えるはずだ！」

「っ！わかった！ルイズ！」

「わ・・わかったわ！サイト！」

破壊の杖のケースがサイトに渡りケースを開ける

「っ！これは！おい！古手！こいつは！『いいから使え！』

・・わかった！」

カチャカチカチカチカチ

「ルイズ！！耳をふさいで伏せろ！」

ルイズはとつさに耳を塞ぎしゃがんだ

ドン！ ドッカーン！

サイトは撃って当たった瞬間ルイズをかばい飛んでくる岩から  
備える

パラパラパラ

「大丈夫か？」

「ええ大丈夫よ」

すぐさまキュルケが飛んでくる

「スッゴイ！破壊の杖を扱えるなんて！・・・待ってゴーレムがいる事はフーケがいるんじゃない・・・」

そこにロングビルが現れて破壊の杖を拾う

カチャ

しかし拾った瞬間ロングビルに一つの銃口が向けられた

「え？」

銃口を向けたのは古手だった

「何やってるのかな・・・ミス・ロングビル・・・いや、土くれのフーケ！」

「なっ！何を言って！」

「じゃあ！何であの時小屋に居なかったのかな？かな？」

「あの時はミス・ヴァリエールだけが・・・」

「あれれ？俺はヴァリエールさんに聞こえるように大きな声で、普通は聞こえるはずだよ」

「つつ！この！食らえ！」

フーケがサイトが使ってた物で狙いを付けるかし・・・

カチッ

「え？」

カチカチ

「ハッ！」

ドカッ！

「グハッ」

「悪いねその武器は単発式でね、ロケットランチャーという・・・俺達の世界の武器だ」

フリーケは気絶をし古手達は破壊の杖を回収をし  
ロケットランチャー  
学園に戻った

「フリーケは城の兵に引き渡し破壊の杖も宝物庫に収まった一件落着だ、君たちのおかげじゃ、今日の宿場会の主役は君たちじゃ」

「当然ですわ」

「今回の一軒は王宮も高く評価してくれる王室からなんなかの報償がある」

「王室からの報償ですか?!すごい!」

しかしルイズは有ることを気付く

「3人と言う事はサイトとマサキは・・・」

「残念ながら君たち2人は貴族ではないのでな」

「そうですか・・・」

ルイズがっかりするしかしサイトは

「別にいらないですよ」

しかし古手はこんなことを言った

「俺は出来たら1つの小屋が欲しいな機体の簡易整備とかしたいし」

「小屋か?なら明後日作らせよう」

「ありがとうございます」

「えっと校長先生ちょっと聞きたい事が」

「うむ」

こうしてフーケの一軒の出来事は終わった

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1067ba/>

---

ISの世界からゼロ魔の世界へ

2012年1月14日16時28分発行